

第2部 自然の保護と利用

第1章 自然環境の現状と対策

第1節 自然環境の現状

1 植 物

植物は、自然環境に最も支配されやすい生物であり、気候や地形、地質の制約を受けることが多い。

本県の気候は、寒冷・多雨・豪雪を伴う北陸型とは異なり、むしろ年平均気温14℃内外の温暖な地といえるが、地勢から気候区を分ければ、平地部の山陰型気候区と山間高冷地の中国山地型気候区に区分される。したがって、生物も寒暖両系の生物が混交して生息している。

植物の分布を自然植生からみれば、低地には温帯性植物であるツバキ・シイ・カシ タブノキなどの常緑広葉樹が広がるが、標高が高くなるにつれ、コナフ・アベマキ帯、ブナ帯、低木草本帯へと移行する。なかでも、大山の中腹に西日本最大の規模を有するブナの原生林や山頂部のキャブク純林は、本県における代表的な植物の分布域を形成している。また、中山町の海岸には、自生の南^限といわれる北方系のハマナスが生育する反面、大山北ろくの海岸部には、南方系のハマヒサカキが生育するなど、寒暖両系の植物が分布している。その他、鳥取砂丘の砂丘植生や浦富海岸のクロ松林は非常に美しい景観を呈している。

一方、平野部の神社の境内や城跡には自然性豊かな森林が残存し、県民に親しまれている。

2 動 物

本県の動物についてみると、鳥類は本邦に生育する野鳥の約半数に当たる200種が生育している。大型動物は少なく、わずかにツキノワグマ、イノシシが知られているにすぎず、他は一ホンザルなどの小型哺乳動物が多い。これら諸動物の生息分布域は、生活環境や食餌の関係などから、自然の生態系がよく保全されている地域に分布し、県東部では八頭郡南域、中部では三徳山、打吹山、西部では大山、蒜山を中心とする地域が主たる生息域といえる。特に、大山には、本邦特産の一属一種の珍獣として知られているヤマネや200種に及ぶ野鳥並びに1,000種を超す昆虫類などが生息し、西日本における小型動物の楽園となっている。しかし、県下の動物のなかで、学術的に最も貴重なものは、中国山地の溪流地西伯郡東長田地区に生息し、「生きている化石」といわれている有尾両生類「オオサノショウウオ」である。

3 地形、地質

本県の地形、地質は、構成する地質や火山活動などにより、県南域と県北域では著しく相違し

ている。

県南城は、三郡変成岩類や花崗岩類などの古い地層からなるため地形は急しゅんで、そこには侵食により生じた遷急点が随所にみられ、滝や瀬などの自然美豊かな景勝地が形成されている。反面、北域は、比較的新しい地質に属する第三紀層やこれを覆う鮮新世火山岩類が広く分布し、地形は一般になたらかである。さらに、本県には大山をはしめとする新しい火山活動の所産である火山地形が各地域に分布している。なかでも、県東部の扇ノ山、氷ノ山及び県西部の大山火山群などは、秀麗な山容と雄大なス ^{ロープ}ープとが相なって、優れた火山地形を形成している。

一方、日本海に面する145kmに及 ^び海岸域には、日本海の荒波と河川の流砂により形成された鳥取砂丘や弓浜半島のような日本最大の砂丘、砂州が発達し、後背地の松林と相まって、白砂、青松の美しい砂浜海岸が各所に見受けられる。

また、県東部の岩石海岸には、洞門、洞窟、波食棚等のめずらしい海岸地形が分布し、これらは透明な海と緑の山とよく調和し、山陰の松島といわれる良好な自然景観が形成されている。

4 景 観

本県の地形的景観の特色は、中国山地の分水界が北に偏り、更にその北側に大山火山帯が横たわって日本海に迫っているので、極めて縦深が浅く、山並の重層する山国的な景観を呈する点にある。しかも、山陰的多雨と急傾斜の短流河川により、山地には深い侵食谷が発達し、河川上流には峡谷のほか、滝や溪谷の発達が顕著である。

大山火山帯では、主峰大山のト ^{イプ}イプ式複式火山のほか、鷲峰山、三徳山、蒜山、氷ノ山など鐘状火山の面影をとどめるもののほか ^{船上山、鉢伏山、霊石山、扇ノ山}など熔岩台地状を呈するものもあり、多様な山地景観を示している。

海岸の景観は、肢節密度の高い東部リヤス式岩石海岸や中部岩石海岸、これらをつなぐ鳥取、北条砂丘帯と弓ヶ浜砂嘴など、いわゆる日本海岸地形に特色がある。

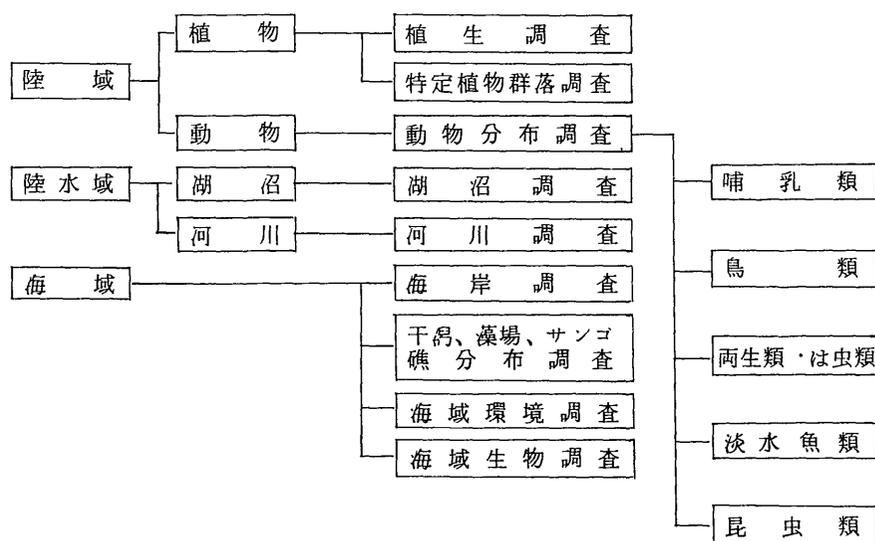
生物的景観についてみると、水平的には沿海部のク ^{マツ}マツ林帯からアカマツ林、シイ、タブなどの常緑広葉樹林帯へ、更に山間奥地のスキ、ヒノキ人工林への移行、垂直的には低位落葉広葉樹林帯からブナ帯を経て、ダイセンキャフボク等を含む低木草本帯への移行など自然性豊かな美しい景観が形成されている。

第2節 第2回自然環境保全基礎調査結果

自然環境保全基礎調査は、自然環境保全法第5条に基づき、おおむね5年ごとに実施される調査であり、第1回は昭和48年度に実施され、第2回は昭和53年度、54年度の两年度にわたって実施された。

この調査の概要は表1のとおりである。

表1 第2回自然環境保全基礎調査



1 植生調査の概要

本調査地域は、海拔0～1710mの範囲にわたり、亜寒帯、亜高山帯自然植生の一型とみられるキャフボク群落を含み、ブナクフス域自然植生、同代償植生、ヤブツバキクフス域自然植生、同代償植生、河辺、砂丘植生がみられる等、中国地方では最も自然性の豊かな地域とみなされる。また、スギ、ヒノキ植林も豊富である。

(1) 亜寒帯、亜高山帯自然植生

キャラボク群落

キャフボク群集は大山のブナ帯の上部に成立する低木林帯の中であって、^{ML} 海拔1350以上に見られる。特に山頂平たん部には日本最大の規模をもつ群落が広がりみことな景観を呈している。

(2) ブナクワス域自然植生

ア クロモジ——ブナ群集

この群集の生育適合地はスギ等の植林適地でもあり、大部分植林化されていて自然としての本林分は著しく減少している。まとまりのある面積をもって残存している代表的な山地を挙げると、大山山域、氷の山、^陸鏑山、~~鏑山~~山芦津、鳴滝山、高鉢山周辺、三徳山、三国山等である。

イ ヒメコマツ群落

県内のヒメコマツ群落の分布は希少であり、いずれも規模が小さい。東大山域の勝田ヶ山から北へ伸びる甲川沿いの支尾根中腹部に分布する林分を除くと、三徳山や洗足山にも分布するがいずれも林分とは言いがたく、ヒメコマツが点的に存在しているにすぎない。

ウ ジュウモンジシダ——サワグルミ群集

ブナクワス域の河川や沢沿いの段丘面あるいは小規模ながら扇状地を形成する沢と河川の合流点に出現する。小規模な林分をも含めると県内の各山地に分布する。ややまとまりのある林分となると大山の甲川及び地獄谷を挙げるのみである。

エ 自然低木林

前述したキャフボク群集ももちろん自然低木林の一つであるが、ここではキャフボク群集を除く、主として夏緑低木林を指す。大山の海拔1300 m以上の山頂部周辺を中心とし、氷の山、那岐山、道後山など全県下の中国脊梁山地沿いに成立している。

オ 自然草原

大山、那岐山、道後山などの山頂に生ずる草原を指し、積雪、風衝立地の安定層などの環境条件に対応して種々の郡落が成立する。

山頂草原の中には真の意味で必ずしも自然草原と言い切れないものもあるが 大山の山頂草原は明らかに自然草原であって規模も大きい。

(3) ブナクワス域代償植生

ア ブナー ズナラ群落

県内各地に分布し、代表的な分布地域を挙げると、大山中腹地域の夏山登山道2～3合目付近、鍵掛峠付近に見られる。また、扇ノ山はほぼ全域にわたってこの群落の林分が分布している。

イ カシワ——ミスナフ群落

落葉広葉樹林で日野郡に多い。

ウ クリ——ミスナフ群落

ヤブツバキクワスの上部付近における夏緑広葉樹二次林である。県内各地に分布するが特に日野郡に顕著で船通山や道後山の中腹に多い。

エ アカシダ——イヌシダ群落

落葉広葉高木林。照葉樹林帯上部からブナ帯にかけその中間帯に分布する。この林域は主要な造林帯でもあり、自然林とみなされるのはまれである。

オ ササ草原

ササ草原の多くはススキ草原に隣接ないし混生し、主に海拔1000m内外の県境沿いの山頂部か尾根に沿って分布が見られる。

カ ススキ草原

ススキ草原すなわち採草地の多くは、600m以上800mまでによく見られたが、今では佐治村三原高原、岩美郡河合谷高原、船上山茶園原、大山スキー場など小面積を残すのみである。

キ 伐跡群落

伐採後はたいてい直ちに植林が行われるため、植林に位置付けられる場合が多く ヤブツバキクラス域ではその分布は少ない。

(4) ヤブツバキクラス域自然植生

ア ヒメアオキ——ウツジロカン群集

現在するカン林には、鳥取市久松山など県内東部の丘陵急斜面へがけ地にみるアツカシはむしろまれであって、普通にはシツカシとウツジロカンが多い。

イ スダシイ群落

常緑広葉高木林で、県内各地に100地点以上の分布をみるが、1haを越える林分はごく少数である。代表的な地区として久松山、意上奴神社、御熊神社、犬山神社、打吹山、倭文神社、波々岐神社などが挙げられる。

ウ アカマツ群落

自然林としてのアカマツ群落は県内ではごく少なく、分布地を12挙げると洗足山及び三角山の500m～700mにかけ尾根の露岸地に線状に成立する小林分がある。

エ クロマツ群落

県下には海岸沿いの狭い範囲にわたって帯状にみられる。東部の海岸においては、海に面した断がいの上部に安定したクマツ林がみられ、海岸特有の景観を現している。代表的な分布地は浦富海岸である。

(5) ヤブツバキクラス域代償植生

ア コナフ群落

人為的な影響を強く受けてできた二次林であり、古く薪炭林として利用されてきたものが多く、アカマツ落葉樹林より上部に位置することが多い。

分布的には海岸から内陸部のブナミズナフ冷温帯葉樹帯に至る移行帯にあり、海拔500mまでのカシークリ帯ないしそれ以下に多く見られる。

イ シイ・カン萌芽林

県下の沿岸部にシイ林がみられ、この内陸側にカン類の林が成立するが、人為がすこぶる激しく加わる地域にあるため、社そうなどを除けば極相林的な状態を示すものは少ない。二次林的なカン林は、河谷に接する急斜地には、かなり県下全域にみられるが 小面積である。

ウ アカマツ群落

常緑広葉樹林が薪炭林として伐採されたあと生じた二次林であり 鳥取県の大部分を覆う広い面積に発達したものである。

エ クロマツ群落

海食がい等に成立する自然植生「ク マツ群落」に隣接して形成される。
浦富海岸等を中心にして分布する。

(6) 河辺・湿原・塩沼地 砂丘植生

ア シク Fass

県下では湖山池、東郷池の二大池の池辺にかなり広い範囲に繁茂している。

イ 砂丘植生

砂丘植生の大規模なものは鳥取砂丘を除けば、ほとんど見られない。

鳥取砂丘はいくつかの、かつてのゆう水地とそれから流出する小流に沿った谷状地形を持っており、南～北 2 km の幅を持った複雑な地形の上に数種類の砂地植生群落型が成立している、全国的視野でもまれな相観を呈している。

(7) 植林地 耕地植生

ア アカマツ植林

常葉針葉植林

全県下低山域に植林されている。

イ ク マツ植林

県下の東部から西部にかけて、海岸沿いの砂浜に広い範囲にわたって植林されている。

ウ スギ、ヒノキ植林

県内では、八頭郡智頭町が最大で、全国屈指である。

エ カフマツ植林

カフマツは県内に自生なく すべて植林である。

オ モウソウチク林

海拔 5 0 0 m 以下の民家が点在する県内全域に見られる。

カ 落葉果樹園

落葉果樹園としては、ナシ、カキ、ブドウ、モモ、クノ園等を挙げることができる。

2 特定植物群落の概要

県下において特定植物群落の選定調査を行った結果、54地点75群落を抽出した。

(1) 海岸

砂丘植生は、鳥取砂丘植生に代表されるが、海浜植生から飛砂や砂丘の移動に影響を受けて変化する植生、そして立地の安定化によって遷移する植生まで、微妙な環境変化に対応する砂丘植生が同一地区で観察される日本的に貴重なものである。

クマツ自然林は、暖温帯の海岸線の景観を特徴づけるものであるが、岩美郡の浦富海岸にはたくさんの小島を含め海岸線露岩地にクマツ自然林が生じ、鳥取県のクマツ自然林を代表するものである。

中山町御崎の海食がけに育生するハマヒサカキ群落は点在する小群落で十分なまとまりを示すものではないが、北限の群落であるので保全されなければならない。

(2) 照葉樹林帯

県内の照葉樹林は、スダジイ林、タブノキ林、シフカンシ林、ウフジロカシ林であるが、いずれも神社社そうあるいは城跡に残存する小面積の林分で1haを越えるものはごく少ない。一般的にスダジイ、タブノキ林は低海拔地、ウフジロガシ、シフカンシ林は内陸部、またスタンイとウフジロガシ林は乾燥性、タブノキ、シフカンシ林は湿潤性の傾向がみられる。

シフカンシ林は日野郡根雨の金毘羅神社社そうを中心として根雨地方に集中している。

(3) 移行帯

県内のおよそ300～400mの海拔高で照葉樹林帯は終わると考えられる。場合によっては照葉樹林から直ちにブナ林帯へ移行することも考えられる。東伯郡三朝町の三徳山や八頭郡智頭町の虫井神社ではウラジロガシ林からブナ林への直接の移行がみられる。一方、県西端部の日野郡特に印賀、阿毘縁地方には400～600mの海拔高に所在する社そうにコナフークノ老齢林やモクシク林があり、ブナ林帯要素の混入は多くない。

(4) 冷温帯落葉広葉樹林帯

県内のブナ林は多積雪型日本海型のブナ林に位置付けられるが、その重要な構成要素であるヒメモチやチシマザサが県西部では脱落しており、日本海型ブナ林から太平洋型ブナ林への移行を示す地域である。また、ブナ林の中にスギが混生する特徴がみとめられ、県東部山地の立地粗悪地に顕著である。

(5) 山頂帯

大山をはじめとして甲ヶ山を中心とする東大山、烏ヶ山、那岐山、須賀ノ山(水ノ山)などの山頂部はブナ林の上部に低木林及び草地が出現する。特に大山のキャフボク林、烏ヶ山のヤマハンノキ林、那岐山のサフサドウダン林は特に貴重である。また、特に大山山頂部周辺の草地は、各種草地群落ともまとまりのある規模を有し、貴重である。

(6) 湿原

県内では山地湿原は極めて少なく希少価値を有する。国府町の菅野湿原など二、三特定群落として取り扱ってもよいと考えられる湿原が存在する。

3 動物分布調査の概要

(1) 県内の哺乳類の概要

ア ーホンザル

ーホンザルの県内の生息地は、概してクリ、コナフ林の分布する山ろく地帯である。

生息地として知られる若桜町、八東町のサルも数年前の面影は既にない。

県内の分布は東部、中部、西部にまたがるけれども、中部では単独のサルのみで、西部でもほとんどが単独のものである。

イ シカ

シカは県の東部の山岳から散在的に生息情報があるほか、中部からも一つの生息情報がある。このうちで、戸倉峠に近い県東南部の山岳地帯では兵庫県側から入り込んでくることがよく知られている。

県の西部からはシカの生息情報は無い。なお、西部の日野町貝原地区と日南町粟谷地区では、それぞれ昭和20年代、40年代に絶滅したということである。

ウ ツキノワグマ

ツキノワグマの県内の生息地域は、東南部の山岳地帯である。そして繁殖地域と見なされるのは、この地帯の中でも兵庫県との、あるいは岡山県との県境に近い深山である。

エ イノシシ

イノシシは、市街地を除けば、県内の大部分の地域から生息するという情報が得られている。

オ キツネ

キツネは、ほとんど全県的に生息するようである。

カ タヌキ

タヌキも県内のほとんどの地域で生息情報がある。

キ アナグマ

アナグマは県内の大部分の地域から生息情報がある。

ク その他(ヤマネ)

ヤマネは県内では1960年以降に七つの発見例があるがこれらは大山又は県東南部の兵庫県境に近い山岳地帯からの記録である。

(2) 県内の両生類、は虫類の概要

ア モリアオガエル

県内一様に分布生息している。河川形態もよく保全されていること、コナフ、ズナフ、カエフ、ブナ等の植生が多いことなど好適な生活環境のためである。海拔高度800m付近を上限として、生息する。

イ オオサンショウウオ

県下三大水系(千代川、天神川、日野川)で見ると、東から西へと移動するにつれ、生息場所、生息個体数の増加が見られる。

中国山地の山麓帯に位置する山地溪流中に生息し、その支持環境の地学的性状は花崗岩である。集水域には、アカマツ、コナフ等の二次林の植生が多いことと、溪畔までその植生が続いていることが最適条件である。生息分布上限の海拔高度は450m付近であり、大体300m以下に生息している。

ウ カスミサノショウウオ

海拔高度300m付近を境として、海岸近くまで、県内一様に分布している。

エ ヒダサンショウウオ

海拔高度300m付近より高い地域(カスミサノショウウオの生活圏より上)県境の山頂近くまで分布している。

オ ブチサノショウウオ

ヒダサンショウウオと同じく海拔高度300m付近より高い範囲に生息しているが場所は点在しているのが特長であり西に行くほど多い。

カ ハコネサンショウウオ

中国山塊ぞいの1000m級の高山の溪谷に生息し、溪流中に多数の幼生が見られる。大火山岩類のうち、旧期に属する外輪山溶岩でできた船上山一帯並びに火山砕屑岩でできている裏大山一帯には、数は少ないが溪流中に幼生を見ることができる。

キ アカウガメ

近年東伯郡泊村の海岸、境港市の海岸で産卵並びに孵化の事実が認められることから回遊していると判断してよい。

ク タイマイ、アオウガメ

発見が秋に多いことから、日本海を南下する際、寒流や天候の急変等の影響を受けて海岸に接近したものと思われ漂着に属する。

(3) 県内の淡水魚類の概要

全般的にみると、3水系とも魚類相に大差はなく総種類は38~42種であり日本各地の淡水域に普通に生息する魚種が生息する。

ア 指定魚種について

27種のうち、鳥取県下で対象とされるものは、カマキリ、ゴギ、イトにととまる。イ

トヨについては、湖山池周辺の小川、鳥取市西南部山麓溪流などで生息が確認され、気高郡気高町宝木周辺の水域でも認められ、ともに降海型である。

天神川、日野川水系については既往の情報をもとに詳查したが検出されず、平野部の開発に伴い絶滅への兆しを認める。

カマキリについては、従来千代川を分布西限とする説が多いが一部天神川にも生息するとの情報もあり、日野川についても同様である。

調査の結果、岩美町陸上川（くがみがわ）の下流域に生息することを認めた。

これは新知見である。タナゴについては対象淡水魚種は認められず、ヤリタナゴを検出したにとどまる。

イ 魚類相全般について

一般にコイ科淡水魚は広く分布し千代川、天神川、日野川ともに中流域より下流では、オニイカワ型河川への転移の傾向が認められる。

また、サケ科の魚種であるイワナ、ヤマメ、アマゴについては、イワナは奥地の源流域あるいは山地流域にのみわずかに生息し、ヤマメについても同様の傾向が認められる。これは一つには、アマゴの放流とも関連するものと考えられ、アマゴ放流によりヤマメは本来の生息水域より追い出されより上流域へと移動し、これに伴いイワナはさらに上流へという傾向が認められる。

鳥取県下の淡水魚相は、まだかなりよく保存されており 貴重なものと判定する。

(4) 県内の昆虫類の概要

調査対象とした昆虫類は、表 2 に掲げた 10 種の「指標昆虫類」及び表 3 に掲げた調査対象昆虫類選定基準により選定された 50 種の「特定昆虫類」である。

表 2 指標昆虫類

| 種コード | 種名 |
|------|----------|
| 1 | ムカシトノボ |
| 2 | ムカシヤノマ |
| 3 | ハッチョウトンボ |
| 4 | ガロアムシ目 |
| 5 | タカメ |
| 6 | ハルゼミ |
| 7 | キフチョウ |
| 8 | ヒメキフチョウ |
| 9 | オオムフサキ |
| 10 | ゲンジボタ |

表3 調査対象昆虫類選定基準

| 記号 | 理 由 |
|----|--|
| A | 日本国内は、そこにしか産しないと思われる種 |
| B | 分布域が国内若干の地域に限定されている種 |
| C | 普通種であっても、北限、南限など分布限界になるとと思われる産地に分布する種 |
| D | 当該地域において絶滅の危機にひんしている種 |
| E | 近年当該地域において絶滅したと考えられる種 |
| F | 業者あるいはマアなどの乱獲により、当該地での個体数の著しい減少が心配される種 |
| G | 環境指標として適当であると考えられる種 |

ア 指標昆虫類

(ア) ムカシトンボ

当県内においては、県内全域にわたり山間部の河川を中心に比較的多くの生息域が報告され、現在も生息が確認されている。

(イ) ムカシヤンマ

県内の山間の河川域を中心に いくつか報告があるが 当県ではまだ詳しく調べられていない。

(ウ) ハッチョウトノボ

山間地の湿地帯にいくつかの生息域が報告されている。

(エ) ガロアムシ目

この種に関する県内の調査は、ほとんど行われておらず、2 3の報告があるにすぎない。しかし森林中では多数生息しているものと思われる。

(オ) タガメ

県内の沼地等に割合と広く分布しており 個体数も多い。

(カ) ハルゼ

県内に広く分布し、個体数も比較的多い。

(キ) ギフチョウ

県内の山麓に広く分布しているが、分布域は比較的限られ、極めて局地的である。個体数はいくつかの地域で激減している。これは環境の破壊や、採集マアによる乱獲、特に食草の採取によるものであろう

(ク) オオムラサキ

県内全域の山麓、神社の境内等に、個体数はそれほど多くないもの確認されている。

(ケ) ゲノジボタル

県内山ろくの河川の上流域に比較的多く見られる。

イ 特定昆虫類

当県においては、50種の特定昆虫類を指定し、調査を行った。

大山山ろくではウスイロヒョウモノモドキ ヒメヒカゲ・ゴマシジミや、ゼフィルス等の種類が減少している。ウスイロヒョウモノモドキは、鏡ヶ成付近以外では少なくなっている。これは、湿生草原が乾燥原へ変わったことも影響しているであろう。

海岸線付近においても、海岸近くの松林を生息域にしているゴキブリ目などに減少が目立つ。

山間の溪流沿いでは、これらの地域に生息するカゲウ目 脈翅目 毛翅目などでは一部の種を除いて、比較的多くの発生が認められている。

4 湖沼調査結果の概要

本県における面積1ha以上の天然湖沼7湖沼中3湖沼について、実施した。透明度調査、改変状況調査等の結果は表4～6のとおりである。

表4 調査結果の概要

| 湖沼番号 | 湖沼名 | 標高(m) | 面積(km ²) | 湖岸線延長(km) | 透明度(m) | 埋立干拓面積(km ²) | 湖岸改変状況 | | | | 湖岸土地利用 | | | 大規模建築物 | 湖沼型 | |
|------|------|-------|----------------------|-----------|--------|--------------------------|--------|-----|------|----|--------|------|------|--------|----------|----|
| | | | | | | | 自然 | 半自然 | 人工 | 水面 | 自然 | 農業 | 市街 | | | 水面 |
| | | | | | | | km | km | km | km | km | km | km | | | km |
| 443 | 多鯨ヶ池 | 17 | 0.18 | 3.1 | 4.5 | 0 | 27 | 0.4 | 0 | 0 | 26 | 0.3 | 0.2 | 0 | 貧 | |
| | | | | | | | % | % | % | % | % | % | % | | | % |
| 444 | 湖山池 | 0 | 6.88 | 17.5 | 0.7 | 0.03 | 22 | 5.8 | 9.5 | 0 | 4.4 | 7.9 | 5.2 | 0 | 富 | |
| | | | | | | | % | % | % | % | % | % | % | | | % |
| 445 | 東郷池 | 0 | 4.06 | 12.7 | 1.25 | 0.01 | 20 | 0.5 | 10.2 | 0 | 2.0 | 3.8 | 6.9 | 7 | 富 | |
| | | | | | | | % | % | % | % | % | % | % | | | % |
| 計 | 3湖沼 | | 11.12 | 33.3 | | 0.04 | 69 | 6.7 | 19.7 | 0 | 9.0 | 12.0 | 12.3 | 7 | 富2 貧1 | |
| | | | | | | | % | % | % | % | % | % | % | | | % |

表5 鳥取県調査対象外天然湖沼(面積0.01km²以上)

| 湖沼名 | 標高(m) | 面積(km ²) | 備考 |
|-----|-------|----------------------|--|
| 鵜ノ池 | 400 | 0.19 | 中国電力の貯水池として利用されているか、本来天然湖沼、オントノ飛来池 |
| 原ノ池 | 0 | 0.01 | 冬季には高潮による排水不良のため、計測面積値以上に拡大、旧海跡湖に復する。 |
| 水尻池 | 0 | 0.25 | 田植～収穫期の動力排水期間外特に冬季には計測面積値以上に湖面は拡大し、旧海跡湖に復する。 |
| 日光池 | 0 | <0.01 | 同上で1ha以下であるが、天然湖沼として挙げる。 |

表6 湖沼概要

| 湖沼名 | 多鯨ヶ池 | 湖山池 | 東郷池 |
|------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 水面標高 | 17.0m | 0m | 0m |
| 面積 | 0.18km ² | 6.88km ² | 4.06km ² |
| 最大水深 | 13.8m | 7.0m | 4.6m |
| 平均水深 | 7.0m | 2.8m | 2.1m |
| 容積 | 0.0015km ³ | 0.019km ³ | 0.0088km ³ |

| 湖沼名 | | 多 鯉 ケ 池 | 湖 山 池 | 東 郷 池 | | | |
|--------------------|----------------|-------------------|-----------------------|-------------------------------|-------|--------------|-------|
| 調査項目 | | | | | | | |
| 湖 岸 線 延 長 | | 3.1 Km | 1 7.5 Km | 1 2 7 Km | | | |
| 水 位 変 動 | | 1 7 m | 0 7 m | 0 5 m | | | |
| 水 温 | 表 面 | 6.9 (2 7.1) °C | 3.3 (3 0.8) °C | 2 4 (3 0.4) °C | | | |
| | 底 層 | 5.3 (8 8) °C | 3.0 (2 8.5) °C | 2.5 (2 9.8) °C | | | |
| 結 永 | | 稀有 (降雪時) | 無 | 無 | | | |
| 流 入 河 川 数 | | 0 | 6 | 4 | | | |
| 流 出 河 川 数 | | 0 | 1 | 1 | | | |
| 埋 立、干 拓 面 積 | | 0 km ² | 0.0 3 km ² | 0 0 1 km ² | | | |
| P H | 1 9 7 8. 年 8 月 | 6.8 | 8.8 | 8 9 | | | |
| D O | 1 9 7 8. 8 | 5.7 ppm | 6 7 ppm | 9.5 ppm | | | |
| C O D | 1 9 7 8. 8 | 4.4 ppm | 1 3.0 ppm | 7.9 ppm | | | |
| T O C | 1 9 7 8. 8 | -ppm | -ppm | -ppm | | | |
| S S | 1 9 7 8. 8 | 4.0 ppm | 2 5 ppm | 9 ppm | | | |
| C l- | 1 9 7 8. 8 | 2 2 3 ppm | 8 8 6 ppm | 7, 6 8 0 ppm | | | |
| ケルダール N | 1 9 7 8. 8 | ppm | ppm | ppm | | | |
| NO ₂ -N | 1 9 7 8. 8 | 0.6 1 ppm | 1 3 1 ppm | 0 9 7 ppm | | | |
| NO ₃ -N | | | ppm | ppm | | | |
| T - P | | 0 0 1 5 ppm | 0 2 7 5 ppm | 0.2 5 8 ppm | | | |
| 大 腸 菌 | | 49×10 MPN/100ml | 2 MPN/100ml | 1.3×10 ³ MPN/100ml | | | |
| 透 明 度 | | 1929. 7. 29 | 4.9 m | | m | 1974 12 11 | 1.4 m |
| | | 1974. 8 1 | 4.3 m | 1975. 1. 7 | 3.5 m | 1975. 2 | 1.5 m |
| | | 1975. 8 25 | 4.0 m | 1976. 2 12 | 2 2 m | 1976. 12. 20 | 1.8 m |
| | | 1976. 9 1 | 3.4 m | 1977. 1 27 | 1.9 m | 1977. 1. 13 | 1.4 m |
| | | 1977. 6. 30 | 3 1 m | 1978. 1 13 | 1.8 m | 1978. 9 13 | 1.9 m |
| | | 1978 8. 28 | 3.4 m | 1979. 1. 25 | 2.5 m | 1979 3. 27 | 1.8 m |

5 河川調査結果の概要

(1) 魚類調査

千代川・ 全捕獲数の過半をフナ類が占める。

天神川・ コクフクハゼの捕獲数が第1調査地点で最大。

日野川・千代川 天神川では捕獲されなかったカマキリが捕獲された。また、シノホリの捕獲数が最大となった調査地点があった。

(2) 河川改変状況調査

河川改変状況調査の結果及び調査対象河川の魚道の状況は、表7及び8のとおりである。

表7 河川改変状況調査結果

| 調査対象 河川名 | 調査区 間数 | 水際線の改変状況 | | | 河原の土地利用状況 | | | | 河畔の土地利用状況 | | | | | | | | |
|-------------|-----------|-------------------------------|-----|------|------------------------------|----|---|------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 人工化された水 際線の割合(延 長の10分比) | | | 人工化された河 原の割合(面積 の10分比) | | | | (右岸) | | | (左岸) | | | | | |
| | | 0~2 | 3~5 | 6~10 | 0 | 23 | 5 | 6~10 | 計 | 自然地 | | 農 業 地 | 市 街 地 | 自然地 | | 農 業 地 | 市 街 地 |
| | | | | | | | | | | 樹 林 地 | そ の 他 | | | 樹 林 地 | そ の 他 | | |
| 千代川 | 48 | 15 | 23 | 10 | 40 | 8 | 0 | 48 | 9 | 2 | 17 | 20 | 9 | 3 | 23 | 13 | |
| 天神川 | 29 | 7 | 1 | 21 | 23 | 2 | 4 | 29 | 4 | 0 | 20 | 5 | 5 | 0 | 21 | 3 | |
| 日野川 | 62 | 33 | 25 | 4 | 59 | 3 | 0 | 62 | 14 | 1 | 41 | 6 | 20 | 2 | 37 | 3 | |

| 調査対象 河川名 | 調査区 間数 | 河川工作物 (箇所数) | | | | 取 水 施 設 の 有 無 | 河川の利用状況 | | | | | | 不 快 要 因 | | | | | | | | | |
|-------------|-----------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------|-------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|------------------|--------|-------------|------------------|------------------|---------|-----------------------|---------------------------------|--------|-----------------------|------------------|---------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|---|
| | | 魚の 溯 上 可 能 | | 魚の 溯 上 不 可 能 | | | 風 景 探 勝 (遊 歩 道) | キ ャ ン プ | 温 泉 | ホ ト リ | 川 下 釣 場 | 常 設 釣 場 | 漁 業 | 水 の に ご り | 水 面 上 の ア ワ 臭 | 悪 臭 | ゴ ミ ・ 残 材 | 砂 利 採 取 | 河 畔 の 道 路 法 面 | 水 量 の 少 な さ | 渇 水 時 の タ ム 湖 岸 | |
| | | 魚 道 有 (ヶ 所) | 魚 道 無 (ヶ 所) | 魚 道 有 (ヶ 所) | 魚 道 無 (ヶ 所) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 千代川 | 48 | 12 | 0 | 24 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 天神川 | 29 | 8 | 15 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日野川 | 62 | 29 | 3 | 0 | 1 | 22 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(注) 各欄には、該当する調査区間数が記入されている。

- 1 「人工化された水際線」とは、コンクリート護岸・矢板等の工作物により構成された水際線をいう
- 2 「人工化された河原」とは、公園 クラウンド等の施設的土地利用地、未利用造成地 農業地になっている河原をいう

表8 魚道の状況

| 調 査 対 象 河 川 名 | 魚の溯上が不可能な魚道 | | 魚の溯上が 可能な魚道 | 計 |
|------------------|-------------|------------|----------------|---|
| | 構造上の問題(箇所) | 管理上の問題(箇所) | | |
| 千 代 川 | 2 | 4 | 1 | 3 |
| 天 神 川 | 0 | 0 | 8 | 8 |
| 日 野 川 | 0 | 0 | 2 | 2 |

6 海岸調査の概要

| 区分 | 自然海岸 | | | | | | | | | | |
|-----|-----------------|------|-------------|--------------|---------------|--------------|------------------|-------------|-------|------|-----|
| | 海岸（汀線）に浜が発達している | | | | | | 海岸（汀線）に浜が発達していない | | 小計 | | |
| | 泥浜海岸 | | 砂質（砂浜）海岸 | | 岩石（磯浜）海岸 | | | | | | |
| | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | |
| 鳥取 | Km 0 | 0 | 49.70 | 52.7 34.4 | 24.75 | 26.2 17.1 | 1994 | 211 13.8 | 94.39 | 65.3 | |
| 島しょ | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | |
| 区分 | 半自然海岸 | | | | | | | | | | |
| | 海岸（汀線）に浜が発達している | | | | | | 海岸（汀線）に浜が発達していない | | 小計 | | |
| | 泥浜海岸 | | 砂質（砂浜）海岸 | | 岩石（磯浜）海岸 | | | | | | |
| | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | |
| 鳥取 | Km 0 | 0 | 20.27 | 50.5 14.0 | 1.14 | 2.8 0.8 | 1871 | 466 12.9 | 40.12 | 27.8 | |
| 島しょ | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | |
| 区分 | 人工海岸 | | | | | | | | 河口部 | | 合計 |
| | 埋立てによってできた海岸 | | 干拓によってできた海岸 | | 左記以外の人 工海岸 | | 小計 | | | | |
| | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 | % | 延長 |
| | 鳥取 | 7.35 | 97.4 5.1 | 0 | 0 | 0.20 | 2.6 0.1 | 7.55 | 5.2 | 2.48 | 1.7 |
| 島しょ | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 |

7 干潟、藻場、サンゴ礁の概要

(1) 干潟

県内の海岸は外洋に面しているものが多い。また、海域における潮差は最大73cm、平均潮差は20cm弱であって、極めて微小である。このため干潟の発達は不良である。

(2) 藻場

鳥取県沿岸海域の藻場は一般に発達不良である。しかし、西部の大山山ろく沖合では岩礁がかなり分布しており、そのため藻場面積が相当大きい。

鳥取県全体の藻場面積は1,168haで、そのうち大山山ろく沖は868haで最も大きく。次に藻場の発達がややみられるのは東部の酒津海岸沖であり、その面積は116haである。また、網

代、田後沖から黒島沖にかけて、かなりの藻場が分布している。底質が花崗岩の藻場面積は96haである。また駒馳山沖や海士島の周囲に安山岩質の藻場が39ha、中部海岸の長尾鼻から橋津にかけても安山岩や玄武岩質安山岩の藻場が49ha、小計88ha分布している。

藻場のタイプはすべてカフモ場で、褐藻類が主体である。藻類は、

ア ホンダワフ科（アカモク、ヨレモク、ノコキノモク、ジモク、ヤソマタモク、フノスジモク、イソモク、ウトフノオ）

イ アミシグサ科（アシグサ、サナダグサ、ヤハスグサ、ウチワ）

ウ コンフ科（ワカメ、クロメ）

下草としては、次のもの等が挙げられる。

ア 緑藻（アオサ科、ルカ科）

イ 紅藻（アングサ科、サンコモ科、ムカテノリ科、オコノリ科）

(3) サンコ礁

鳥取県沖合では、オノチキサゴが採取されたことがあるがサンコ礁地形を形成するようなもの存在しない。

8 海域環境の概要

個別的にみた概要

(1) プラクトンについて

一般的にいえば、瀬戸内海等における頻発する赤潮成立に関連あるプラクトン組成でないことを明記しておきたい。

(2) 底生生物について

実施要項に示されているシクカイ、チョノハナカイ、ヨソハネスヒオ、Capitellacapitataに関する事例は、少なくとも認められない。現状では底生生物に関する限り特記すべきことがらは認められないものと判定する。

(3) 付着生物について

既存のデータは全くなく今後の課題というほかない。

(4) 大腸菌について

概要としてみれば、港湾化水域及び一級河川入水域の一部に異常な値のデータが見られるが全体的にみると、環境基準を十分に充足する実情であり特に大腸菌汚染と認められる水域は検出されない。

9 海域生物の概要

動物及び海藻については、特に、質的にはほとんど変化がなく海域生物の大要を示すものと判断されることから提出したものである。特に海藻については、調査の都度種類相を確認し調査時における特記すべき変化を認めなかったため、そのまま記入した。

96
津
ス
よ
よ
p
へき
るが
域は
と判
調査

| | |
|-------|--|
| 潮上帯 | アフレタマキビ |
| 高潮帯 | |
| 岩礁表面 | タマキビカイ、イワフジツホ、ヒザフカイ |
| 岩礁間隙面 | カメノア、イガイ |
| 中潮帯 | タマキビカイ、インダ、クホカイ、カノカイ、カノア、イカイ、ヒザフカイ、ウノアン、ベ、ウカサカイ、ホサツカイ、キュウシュウクビキレカイ |
| 低潮帯 | カメノア、イカイ、レイシ、ウノアン、ヒザフガイ、ウメホノイソギンチャク、クボガイ、カノコカイ、ホサツガイ、キュウシュウクビキレガイ |
| 浸水帯 | ムフサキウー、ハフンウー、クモヒトヅ、イトマキヒトア、ヒメヒトヅ、ヒザラカイ、ケヤノムシ、イワムシ、ウメホシイソギンチク |

第3節 保全すべき地域

県内における自然環境を保全すべき地域は次の表9～14のとおりである。

なお、評価については、部門ごとに特殊性があり一律に規定することはできないが、学術的な観点から全国レベルのもの-A級、中国地方レベルのもの-B級、県レベルのもの-C級として表示した。

表9 自然環境を保全すべき地域(1)

| 評価区分 | 植物部門 | 動物部門 | 地形部門 | 地質部門 | 計 |
|------|-------|------|------|------|--------------|
| A 級 | 10 箇所 | 7 箇所 | 2 箇所 | 3 箇所 | 21 箇所 |
| B 級 | 10 | 8 | 21 | 19 | 59 |
| C 級 | 17 | 7 | 40 | — | 64 |
| 合計 | 37 | 22 | 63 | 22 | (128) 144 |

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表10 自然環境を保全すべき地域(2)

| 部門 | 東部地区 | 中部地区 | 西部地区 | 計 |
|----|------------|------------|------------|--------------|
| 植物 | 2 箇所 | 5 箇所 | 5 箇所 | 37 箇所 |
| 動物 | 9 | 5 | 8 | 22 |
| 地形 | 33 | 15 | 15 | 63 |
| 地質 | 11 | 4 | | 22 |
| 合計 | (71) 80 | (23) 29 | (34) 35 | (128) 144 |
| 景観 | | | | 13 |

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表11 保全すべき植物

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す べ き 自 然 環 境 | 評 価 | 備 考 |
|---------------------|----------------|-----------------------|-----|-----|
| 覚 寺 神 社 | 鳥 取 市 | ノイ林 | C級 | |
| 伏 野 神 社 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 御熊神社とその 周辺 | 〃 | 〃 | B級 | |
| 細 見 神 社 | 〃 | 〃 | C級 | |
| 香 取 | 〃 | ノイ-カン林 | A級 | 指定済 |
| 松 上 | 〃 | ノイ-サカキ林 | 〃 | 〃 |
| 管 野 | 国 府 町 | オオミズコケなどの湿原植物 | 〃 | 〃 |
| 甘 露 神 社 | 岩 美 町 | ノイ林 | C級 | |
| 太 田 神 社 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 院内部落周辺 | 〃 | 常緑広葉樹林 | 〃 | |
| 唐 川 | 〃 | カキツバタなどの湿原植物 | A級 | 指定済 |
| 坂 谷 崎 神 社 | 福 部 村 | 常緑広葉樹林 | C級 | |
| 南 田 神 社 | 〃 | シイ-カン林 | B級 | |
| 鹿 野 城 跡 | 鹿 野 町 | タブ-シイ林 | C級 | |
| 赤 蔵 神 社 | 船 岡 町 | ノイ-カン-サカキ林 | B級 | |
| 三 谷 神 社 | 河 原 町 | サカキ林 | C級 | |
| 北村権限の森 | 〃 | ツハキ-タフ林 | 〃 | |
| 陣 鉢 山 | 若 桜 町 | ブナ林 | B級 | |
| 糸 白 見 | 〃 | ヒメコマツ・シヤクナゲの自生地 | C級 | |
| 弁 天 谷 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 頭 巾 山 | 用 瀬 町 | 針・広葉樹混交林 | 〃 | |
| 洗 足 山 | 〃 | ヒノキ・ヒメコマツ林 | A級 | |
| 犬 山 神 社 | 〃 | カシ-シイ林 | B級 | |
| 三 原 高 原 | 佐 治 村 | ススキ・アカモノを中心とした風衝草原 | 〃 | |
| 三 国 山・高 鉢 山 ・高 山 | 佐 治 村 河 原 町 | フナ-ミズナフ林 | A級 | |
| 鳴 滝 山 | 智 頭 町 | フナ林 | 〃 | |
| 虫 井 神 社 | 〃 | カン-サカキ-フナ林 | B級 | |
| 笏 賀 | 三 朝 町 | ヒノキ-クンシヤクナゲ林 | A級 | 指定済 |
| 田 代 部 落 | 〃 | ヒゲノカリヤス・アカモノが密生する風衝草原 | B級 | |
| 若 杉 山 律 黒 山 | | アカモノを混える風衝ススキ草原 | C級 | |

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す べ き 自 然 環 境 | 評価 | 備 考 |
|---------|----------------|-------------------|----|-----|
| 曾 谷 | 関 金 町 | オオ スコケの自生する湿原 | B級 | |
| 筧津・御崎海岸 | 赤 碕 町 中 山 町 | ハマヒサカキ群落 | A級 | |
| 馬 場 | 西 伯 町 | シイ林 | 〃 | 指定済 |
| 本宮部落周辺 | 淀 江 町 | ツバキーモチノキ林 | C級 | |
| 別 所 | 日 野 町 | コナフ林 | 〃 | |
| 三 栄 | 日 南 町 | ケヤキ林 | 〃 | |
| 日 谷 社 寺 | 〃 | コナフーアカマソ林 | B級 | |

表12 保全すべき動物

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す べ き 自 然 環 境 | 評価 | 備 考 |
|---------------------|-------------|--------------------------|----|-----|
| 千代川河口 | 鳥 取 市 | 水鳥（ハクチョウ、カモ類）の渡来、生息地 | C級 | |
| 河内～安蔵 | 〃 | カシカの生息地 | 〃 | |
| 院 内 | 岩 美 町 | モノアオカエルの生息地 | 〃 | |
| 酒 津 | 気 高 町 | ウミネコの渡来地 | B級 | |
| 殿 ～ 矢原 | 鹿 野 町 | カワノノユカイの生息地 | 〃 | |
| 鷲 峰 山 | 〃 | 鳥類、蝶類（キフチョウ）の生息地 | 〃 | |
| 大 江 ノ 奥 | 船 岡 町 | イノシシ、クマタカの生息地 | C級 | |
| 三 原 高 原 | 佐 治 村 | 鳥類、蝶類（ウスイロヒョウモンモトキ）の生息地 | B級 | |
| 三 国 山 ・ 高 鉢 山 ・ 高 山 | 佐 治 村 河 原 町 | 鳥類（クマタカ）、蝶類（ミドリシシミ類）の生息地 | A級 | |
| 天神川河口 | 北 羽 合 町 | 水鳥（カン、カモ、ノギ、チトリ）の渡来、生息地 | B級 | |
| 加谷～木地山 | 二 朝 町 | カンカの生息地 | C級 | |
| 福 山 | 〃 | オオサンショウウオの生息地 | A級 | |
| 二軒谷・大谷 | 〃 | 魚類（イワナ、ヤマメ）鳥類（ヤマセミ）の生息地 | C級 | |
| 今 西 | 関 金 町 | オオサンショウウオの生息地 | A級 | |
| 日野川河口 | 米 子 市 | 水鳥（ノギ、チトリ、カイツブリ）の生息地 | C級 | |
| 彦 名 | 〃 | コハクチョウを主とする水鳥の渡来、生息地 | A級 | |
| 印 賀 | 日 南 町 | フノボウソウの生息地 | 〃 | |
| 板井原川 ～真住川 | 日 野 町 | アマゴの生息地 | B級 | |
| 上 菅 | 〃 | オオサンショウウオの生息地 | A級 | |
| 毛 無 山 | 江 府 町 | キツツキ類の生息地 | B級 | |
| 谷 山 川 | 溝 口 町 | オオサンショウウオの生息地 | A級 | |

| 名 称 | 所在地 | 保全すべき自然環境 | 評価 | 備考 |
|-----|-----|------------------|----|----|
| 二 部 | 溝口町 | カキノムノ、ハナムタリ類の生息地 | B級 | |

表13 保全すべき地形・地質
〔地形〕

| 名 称 | 所在地 | 保全すべき自然環境 | 評価 | 備考 |
|---------|------------|----------------------------|----|-----|
| 尾 落 の 滝 | 鳥取市 | 若返りの谷、学術参考地 | C級 | |
| 雁 金 山 | 〃 | 花崗岩の孤立丘 | 〃 | |
| ス ク モ 山 | 〃 | スノハチ型の小孤立丘 | 〃 | |
| 矢 山 | 〃 | 孤立山地地形 | 〃 | |
| 長 柄 峽 谷 | 〃 | 河川争奪によってできた深い侵食谷 | 〃 | |
| 摩 尼 山 | 鳥取市 福部市 | 花崗岩質岩石の孤立山地地形 | 〃 | |
| 毛 無 山 | 鳥取市 鹿野町 | 安山岩のトーム状地形 | 〃 | |
| 大 石 峽 谷 | 国府町 | 上流型の峽谷地形 | 〃 | |
| 今 木 山 | 〃 | 沖積平野における残丘 | 〃 | |
| 菅 野 | 〃 | 湿原を有する溶岩台地地形 | A級 | 指定済 |
| 金 峰 山 | 岩美町 | 第三紀層の孤立山地地形 | C級 | |
| 立 岩 山 | 〃 | 急傾斜を有する孤立峰 | B級 | |
| 酒 津 | 気高町 | 垂直な崖・幅広い侵食台・離れ岩などが発達する岩石海岸 | 〃 | |
| 鷲 峰 山 | 鹿野町 | 開析の進んだ火山地形 | 〃 | |
| 長 尾 鼻 | 青谷町 | 安山岩溶岩の断崖地形 | 〃 | |
| 姫 路 峽 谷 | 郡家町 | 上流型の峽谷地形 | 〃 | |
| 猫 山 | 〃 | 急傾斜面を有する孤立丘 | C級 | |
| 霊 石 山 | 河原町 郡家町 | 山頂に平坦面を有する火山地形 | B級 | |
| 遠 見 山 | 八東町 若桜町 | 古生層の壮年山地地形 | C級 | |
| 諸 鹿 峽 谷 | 若桜町 | 安山岩溶岩の急崖地形 | B級 | |
| 城 山 | 〃 | 古生層の孤立丘地形 | C級 | |
| 落 折 高 原 | 〃 | 氷ノ山溶岩による溶岩台地 | 〃 | |
| 落 折 峽 谷 | 〃 | 急壁と峽谷地形 | 〃 | |
| 吉 川 峽 谷 | 〃 | 急壁と峽谷地形 | 〃 | |
| 頭 巾 山 | 用瀬町 | 急峻な地形を示す壮年山地地形 | 〃 | |
| 屋 住 | 〃 | 花崗岩に刻まれた峽谷地形 | 〃 | |
| 千代川中流 | 用瀬町 智頭町 | 壮大な谷壁と穿入蛇行を示す峽谷地形 | B級 | |

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す へ き 自 然 環 境 | 評価 | 備 考 |
|-------------|----------------|-------------------------|----|-----|
| 箆 山 | 用瀬町 智頭町 | 古生層の壮年山地地形 | C級 | |
| 津 無 高 原 | 佐 治 村 | 山麓階的な侵食平坦面地形 | B級 | |
| 険 所 峠 面 | 〃 | 中国準平原の遺物 | C級 | |
| 佐 治 | 〃 | 穿入蛇行地形 | B級 | |
| 穂 見 山 | 智 頭 町 | 古生層からなる壮年山地地形 | C級 | |
| 新 見 川 | 〃 | 壮年期の峡谷地形 | C級 | |
| 岩 倉 峡 谷 | 倉 吉 市 | 柱状節理にそって滝が形成された峡谷地形 | 〃 | |
| 高 城 山 | 〃 | 大山の裾野面中にそひえる花崗岩の壮年山地 | B級 | |
| 小 浜 | 泊 村 | 懸谷と海岸段丘地形 | C級 | |
| 泊 | 〃 | 安山岩溶岩に形成された海食崖、波食棚 | B級 | |
| 笏 賀 峡 谷 | 三 朝 町 | 小崖錐を刻む溪流河川のV字谷地形 | C級 | |
| 太 郎 田 峡 谷 | 〃 | 深いV字谷と穿入蛇行地形 | B級 | |
| 鉛 山 峡 谷 | 〃 | やや浅いV字谷地形 | C級 | |
| 曹 原 寺 峡 谷 | 〃 | 上流型V字谷地形 | 〃 | |
| 加 谷 ～ 木 地 山 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 高 清 水 高 原 | 〃 | 隆起準平原遺物の可能性をもつ地形 | A級 | |
| 福 山 | 〃 | 前輪廻の谷と峡谷地形 | B級 | |
| 田 代 ・ 下 畑 | 〃 | 花崗岩の峡谷地形 | 〃 | |
| 若 杉 山 | 〃 | 準平原 | C級 | |
| 北 条 砂 丘 | 北 条 町 大 栄 町 | 浜堤列の発達した砂丘 | B級 | |
| 箆 津 御 崎 海 岸 | 赤 碓 町 中 山 町 | 海食によって形成された急崖地形と漂礫浜 | B級 | |
| 粟 島 | 米 子 市 | 弓ヶ浜砂川に突出する玄武岩の孤立丘 | C級 | |
| 弓 ヶ 浜 | 米 子 市 境 港 市 | 日野川によって形成された長大な砂川 | B級 | |
| 法 勝 寺 川 | 西 伯 町 | 上流型溪谷地形 | C級 | |
| 金 華 山 | 〃 | 絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立丘 | B級 | 指定済 |
| 越 敷 野 | 会 見 町 | 溶岩台地 | C級 | |
| 要 害 山 | 会 見 町 西 伯 町 | 壮年山地地形 | 〃 | |
| 壺 瓶 山 | 淀 江 町 | 山頂部に平坦面をもつ玄武岩質の山地 | 〃 | |
| 赤 松 原 | 大 山 町 | 開析の進んでいない火砕流面 | 〃 | |
| 孝 霊 山 | 大 山 町 淀 江 町 | 大山の寄生火山の中で最大のト イア状の火山地形 | B級 | |
| 大 雀 | 名 和 町 | 漂礫浜 | C級 | |

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す べ き 自 然 環 境 | 評価 | 備 考 |
|---------|----------------|--------------------|----|-----|
| 大 倉 山 | 日 南 町 | 凹形斜面をもつ孤立山地 | C級 | |
| 鬼 林 山 | 〃 | 北斜面に広大な緩斜面を有する壮年山地 | 〃 | |
| 猿 飛 峽 谷 | 江 府 町 | 峽谷地形 | 〃 | |
| 宝 仏 山 | 江 府 町 日 野 町 | 壮年山地の地形からなる孤立峰 | 〃 | |
| 鬼 住 山 | 溝 口 町 | 花崗岩からなる壮年山地 | 〃 | |

〔 地 質 〕

| 名 称 | 所在地 | 保 全 す べ き 自 然 環 境 | 評価 | 備 考 |
|-------------|----------------|------------------------|----|-----|
| 円 護 寺 | 鳥 取 市 | 安山岩の柱状節理の発達地、学術参考地 | B級 | |
| 円 通 寺 | 〃 | 円通寺礫岩の好露頭地 | 〃 | |
| 白 兎 | 〃 | 白兎礫岩層の模式地、学術参考地 | 〃 | |
| 普 含 寺 | 国 府 町 | 中新世の標準化石産地及び学術上の模式地 | 〃 | |
| 拾 石 | 〃 | 安山岩の柱状節理の発達地 | 〃 | |
| 岡 益 | 〃 | 植物化石の産地 | 〃 | |
| 宍ノト・奥谷 | 〃 | 海産魚類化石の産地 | A級 | |
| 菅 野 | 〃 | 湿原地中に形成された泥炭層 | 〃 | 指定済 |
| 亀 尻 高 原 | 青 谷 町 | 亀尻玄武岩の模式地 | B級 | |
| 富 枝 | 八 東 町 | 安山岩の柱状節理の発達地 | 〃 | |
| 佐 治 | 佐 治 村 | 緑色千枚岩を原岩とした佐治石の分布地 | 〃 | |
| 高 城 山 | 倉 吉 市 | 大山山麓の基盤岩露出地 | 〃 | |
| 高 清 水 高 原 | 三 朝 町 | ウワン鉱床の標式地及び植物化石の産地 | A級 | |
| ヒ 大 立 | 〃 | 古期大山火山碎屑岩の模式地 | B級 | |
| 北 条 砂 丘 | 北 条 町 大 栄 町 | 砂丘成因にかかる鍵層の分布地、学術参考地 | 〃 | |
| 高 姫 | 会 見 町 | 中位段丘を構成する礫層の模式地 | 〃 | |
| 一 ノ 谷 | 大 山 町 | 溝口凝灰岩の模式地 | 〃 | |
| 名 和 ・ 御 来 屋 | 名 和 町 | 御来屋礫層の模式地 | 〃 | |
| 名 和 | 〃 | 火山碎屑流（名和泥流）の分布地 | 〃 | |
| 多 里 | 日 南 町 | 多里層の模式地、荷重痕の露出地及び化石の産地 | 〃 | |
| 多 里 | 〃 | 粘板岩を原岩とする松皮石の産地 | 〃 | |
| 宝 仏 山 | 江 府 町 日 野 町 | 角礫岩層の好露出地 | | |

表14 保全すべき景観

〔海岸地域〕

| 地 区 名 | 概 要 | 備 考 |
|---------------------|--|-----|
| 山陰海岸国立公園周 辺地区 | <p>金峰山及び蒲生付近の展望。</p> <p>岩井温泉西南丘陵、御湯神社、恩志付近、兵主神社、立岩山、二上城跡一帯の広葉樹林。</p> <p>摩尼山頂上部の植相。</p> | |
| 賀露～橋津海岸地区 | <p>賀露、湖山、大寺屋、白兔、末恒のクロマツ林。</p> <p>9号線南側斜面のタフ、ソイ林。</p> <p>魚見台、長尾鼻、石脇東部岬の展望。</p> <p>湖山他の小島嶼群、石釜。</p> <p>矢山、吉岡、国立療養所、箕上山、三谷、布勢、天神山城跡、山王権現社周辺等の林、馬ノ山、大平山、御冠山、鉢伏山の展望。</p> <p>羽衣石城跡の広葉樹林。</p> <p>白兔伝承地、酒津、夏泊、泊等の漁村。</p> <p>吉岡、浜村、東郷、浅津の各温泉。</p> <p>馬ノ山、古墳群、倭文神社の人文景観。</p> | |
| 北 条 砂 丘 地 区 | <p>松上、東園、西園などの集落南縁のタフ、エノキ、ヤナキなどの対南風防風林。</p> <p>北尾古代住居跡、島遺跡及び由良砲台跡の人文景観。</p> | |
| 大山北麓海岸地区 (由良～淀江) | <p>中山町海岸のハマナスやアノサイの群落、沿道のクロマノ林。</p> <p>中山町松河原及び壺瓶山北麓の常緑広葉樹林。</p> <p>名和氏史跡、赤碕漁港、八橋城跡、赤碕畜産試験場と東伯町一帯の高麗ソハの集団栽培景観。</p> | |
| 弓ヶ浜海岸地区 | <p>外浜浜提帯に弧を描くクロマノ防風林帯。</p> <p>内浜砂丘帯の古いクロマノ林列、集落列沿いのクマノ屋敷林列、粟島神社の常緑広葉樹林。</p> | |

〔主要市街地周辺〕

| 地 区 名 | 概 要 | 備 考 |
|-------|---|-----|
| 鳥 取 | <p>久松山の山容、植相。</p> <p>摩尼山塊、稲葉山山塊（池田家墓地、宇倍神社、美敷水源池を含む）</p> <p>霊石山塊、大路山、面影山、今木山及び千代川西岸平野中の孤立丘群。</p> <p>庁、国分寺、法華寺などの集落景観と屋敷林。</p> | |
| 倉 吉 | <p>打吹山、巖城や打吹山南麓の八幡神社の広葉樹林。</p> <p>国庁裏神社社叢。</p> <p>伯耆国分寺跡—四天王寺—不入岡の展望。</p> <p>天神川と三徳川との合流点付近、及び大宮神社等の社叢。</p> | |
| 米 子 | <p>城山の地形、植生。</p> <p>市街地内の社寺林、兼久土手の桜並木、王子製紙社宅周辺のポプフ並木、皆生温泉地内外のクロマツ林。</p> <p>福成—天万—安曇周辺の丘陵又は孤立丘群に生育する広葉樹林</p> | |

〔主要河川流域〕

| 地 区 名 | 概 要 | 備 考 |
|-----------|---|-----|
| 智 頭 川 流 域 | <p>（国英～社）</p> <p>釜ノロサツフ並木、樹園地、犬山神社社叢。</p> <p>高福攻撃面、鷹狩攻撃面、河床露岩地（用瀬） 頭巾山露岩峰、洗足山露岩峰、篠ヶ穴穿入蛇行地形。</p> <p>柵形城跡、景石城跡、用瀬宿場町並。</p> <p>（智頭～芦津）</p> <p>スキーヒノキの美林。</p> <p>三郡変成岩露岩の河谷床。</p> <p>置千木止り屋根型集落、高段定置稲架、智頭町の養鯉と旧</p> | |

| 地区名 | 概要 | 備考 |
|----------|--|----|
| 智頭川流域 | <p>宿場町及び旧木地師集落。</p> <p>(佐治)</p> <p>山王滝トチの巨木群落。</p> <p>青黒色佐治石河床、猿渡溪谷、尾際ダム。</p> <p>因州和紙の産地、津野並ひに津無の高位集落と高原面上からの景観。</p> <p>(曳田川)</p> <p>曳田川上流の三滝溪。</p> <p>(安蔵川)</p> <p>下流の花崗岩地域。</p> | |
| 八東川 袋川流域 | <p>(丹比～若桜)</p> <p>丹比攻撃面、玄武岩柱状節理露頭、千石岩、戸倉峠付近の溪谷と急崖。</p> <p>鬼ヶ城跡と樹叢、若桜宿場町の景観、重要文化財建築岩屋堂、高段定置稲架、隠遁集落(落折等)</p> <p>(扇ノ山、氷ノ山西麓)</p> <p>姫路溪谷、妻鹿野溪谷、茗荷谷ダム、春米溪流。</p> <p>石屋根の集落、隠遁集落、旧木地師集落。</p> | |
| 勝部川流域 | <p>八葉寺の植相、河谷の斜面。</p> <p>マス養殖、因州和紙の産地。</p> | |
| 竹田川流域 | <p>三朝温泉から坂本-三徳山-俵原-鹿野道沿道の溪谷美と史跡名勝地、三徳山。</p> <p>飯盛山の自然植相、俵原牧場、隠遁集落俵原。</p> <p>中津ダム、名勝小鹿溪、東西小鹿段丘集落。</p> <p>鉛山-小河内、田内-大谷付近の溪谷。</p> | |
| 日野川流域 | <p>鏡ヶ成-下蚊屋溪谷と猿渡溪谷、板井原溪谷。</p> <p>根雨から生山地区の河床景観、石霞溪の岩石美、溪谷地形。</p> <p>城跡、根雨-生山の宿場町、箱棟屋根景観。</p> <p>板井原付近、印賀川、湯河、小原川、大木屋の各溪谷。</p> | |

第4節 保全対策

1 県自然環境保全地域の指定

県内における自然環境を保全すべき地域のうち、優れた自然の風景地については、自然公園として指定がされているが、①高山植物、優れた天然林等の区域、②特異な地形、地質を有している区域、③動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、湿原、河川等については鳥取県自然環境保全条例により、順次、県自然環境保全地域の指定を行うこととしている。

指定については、第4次鳥取県総合開発計画に基づき、昭和60年度末までに20か所程度、更に昭和65年度末までに20か所程度の地域指定を目標としている。

現在、指定されている県自然環境保全地域は、次の表のとおりである。

表15 県自然環境保全地域

| 番号 | 地域名 | 所在地 | 面積の内訳(ha) | | | 指 定 理 由 | 指定年月日 |
|----|----------|-----|-----------|----------|-------|--|---------------|
| | | | 普通 地区 | 特別 地区 | 計 | | |
| 1 | 菅野 | 国府町 | 2 00 | 18 50 | 20 50 | ミスゴケ等の湿原植物、溶岩台地氷河期の花粉等を有する泥炭層 | 昭和 52. 4 8 |
| 2 | 香取 | 鳥取市 | 4 00 | 3 90 | 7. 90 | シイノキ林を主としたヤブツバキクス域の常緑広葉樹林 | 52 4 8 |
| 3 | 松上 | 〃 | — | 5 20 | 5 20 | シイノキ林を主としたヤブツバキクス域の常緑広葉樹林 | 52 4 8 |
| 4 | 笏賀 | 三朝町 | — | 3 20 | 3 20 | シイノキ、ウツジロガン等の常緑広葉樹林とヒノキ、ノクシジャクナゲ群落 | 52 7. 29 |
| 5 | 馬場 | 西伯町 | — | 3 70 | 3 70 | シイノキ林を主としたヤブツバキクス域の常緑広葉樹林 | 52 7 29 |
| 6 | 唐川 | 岩美町 | — | 19 80 | 19 80 | カキツバタ等の湿原植物、ハノチョウトンボ溶岩台地、花粉植物化石を有する泥炭層 | 53. 5. 12 |
| 7 | 金華山 | 西伯町 | — | 6 10 | 6 10 | 絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立状の山体 | 55 12 23 |
| 合計 | (7 地域) | | 6 00 | 60. 40 | 66 40 | | |

2 自然保護思想の普及

(1) 自然科学館と自然解説

優れた自然を保護することは私達国民の課題であるが、そのためには法律により規制をかけるだけでなく、自然の利用者ひとりひとりが自然に学び、自然の大切さを理解することが必要である。そのため県では、西伯郡大山町大山に県立大山自然科学館を、岩美郡岩美町牧谷に県立山陰海岸自然科学館を建設し自然保護思想の啓もうを図っている。

また、県立大山自然科学館を基地として自然解説制度を設け5月から11月の期間に、展示物の解説のほか、大山地内の地形、地質、動植物及び歴史等について現地解説を行い 自然に関する知識の普及と自然保護思想の高揚を図っている。

表16 昭和56年度自然解説実施状況

| 季 節 | 実 施 日 数 | 参 加 人 員 |
|-----------|---------|---------|
| 春 (5～6月) | 7日 | 148名 |
| 夏 (7～8月) | 31日 | 1,273名 |
| 秋 (9～11月) | 4日 | 50名 |
| 計 | 42日 | 1,471名 |

(2) 青少年自然保護研修

本県の優れた自然を守り、後世に伝えていくためには、次代を担う青少年たちに、自然保護の重要性を正しく理解させることが大切である。

このため、将来各層のリーダーとしての活躍が期待される中学生を対象に、下記のとおり自然保護研修を実施した。

今年度初の事業であったが 自然の中での活動等とおして、充実した研修を行うことができた。

(研修概要)

日 程 昭和56年7月27日～29日

場 所 船上山少年自然の家

参加者 中学2年生 43名 引率教諭 10名

参加校 鳥取北中、岩美中、福部中、智頭中、東伯中、赤碓中、尚徳中、大山中、溝口中、江府中

講 師 細木正男(米子北高教諭)
小西 毅(西部農高教諭)
川上明敏(福原中学校教諭)
原田友一郎(鳥取大学学生)
小森順吉(大山隠岐国立公園管理事務所長)

研修内容 自然観察(鱒返しの滝、船上山登山)
星天観測(星のスライド)
実験実習(プレパパート作成、観察)
講 義(森林と私達、国立公園と自然保護、リーダーシップとメンバーシップ)

表示物
に関する

(3) 映画「大山の自然」の製作

昭和56年が国立公園制度創設50周年、大山国立公園指定45周年に当たるのを機会に、下記のとおり映画「大山の自然」を製作した。

映画フィルムのほか テレビ用ビデオテープも多数作成し、大山自然科学館をはじめ関係市町村、東京、大阪事務所等にも配布、広く活用を図っている。

(映画の概要)

| | |
|------|--|
| 規 格 | 16 リカラーフィルム音声入り |
| 上映時間 | 24分 |
| 目 的 | 大山の自然の姿を紹介し、併せて自然保護の重要性を啓もうする。 |
| 内 容 | 大山の成りたち、地形、地質、植物、動物、歴史、産業、四季、公園利用、自然の保護等 |

呆護の

り自然

第5節 温泉の現状

がてき

本県における温泉は、13温泉地、294源泉(利用源泉205、未利用源泉89)から平均温度55.6度の温泉水を毎分13,748リットルくみ上げ、主として観光、保養温泉として利用され、昭和56年における利用人口は440万人に達している。

昭和56年3月現在の各都道府県別温泉利用状況(環境庁自然保護局発表)によれば、本県の温泉源泉総数、ゆう出量はいずれも全国レベルの中位以下に位しているが、泉温42度以上の源泉占有率は77.1パーセントを示し、全国最高位の大分県の86.6パーセントには及ばないまでも、全国平均の61.5パーセントを大きく上回る高率を占めている。このことは、本県の温泉は、主として高温温泉を対象とした適正な利用が行われていることがうかがえる。

温泉の利用人口は、最近横ばい状態ながら、長期的にみると漸増の傾向をたどり、将来の入り込み容数を推測すれば、昭和60年には約480万人となり、温泉は保養、休養の場として、あるいは医療施設の一つとし、今後ますます利用されてゆくことが予想される。

これに対処するため従来、資源の枯渇、衰退現象等を防止するため、それぞれの地域に適合した掘削等の規制を行う一方、源泉の集中管理の導入を指導してきたところである。

更に今後は、資源の衰退防止と、既成温泉地の適正な利用指針の基礎資料とするため、県下の主要温泉地について、地球物理調査、地下地質構造調査等一連の科学調査を年次計画で実施することとし、既に昭和52年度～54年度に皆生温泉を、昭和55年度～56年度に三朝温泉の調査を終了しており、現在昭和56年度から3か年計画で東郷 羽合両温泉について調査を実施している。

ノミ

表 17 温泉地別温泉利用状況

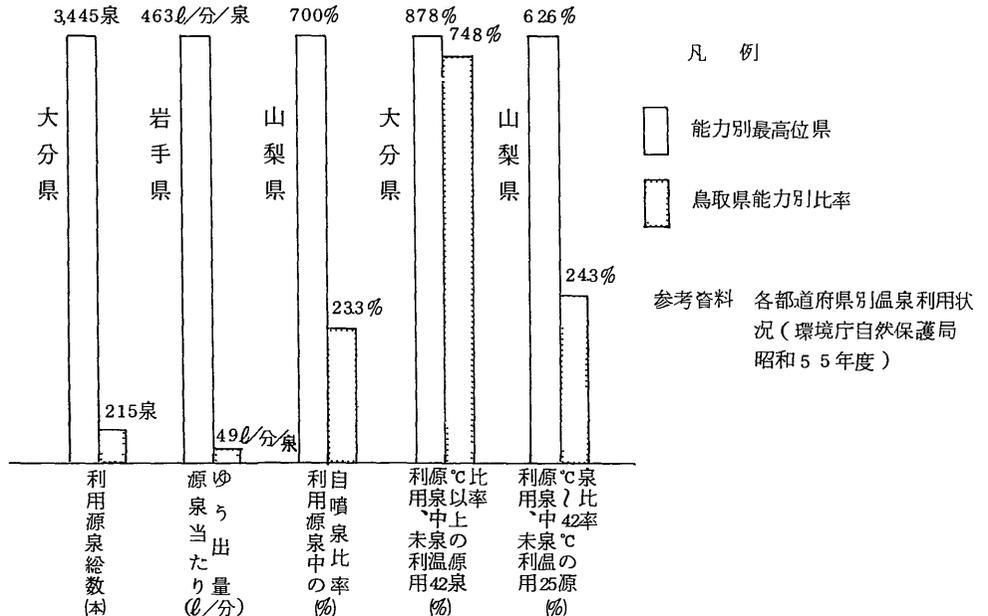
昭和57年3月現在

| 温泉地名 | 源泉数 (A+B) | 利用源泉地(A) | | 未利用 源泉数 (B) | 温度別利用源泉数 | | | 平均 温度 ℃ | ゆゝ出量 計 ℓ/分 | 主たる泉質 |
|-------------|--------------|----------|-----|-------------------|-----------|----------------|-----------|---------------|------------------|---------------------------|
| | | 自噴 | 動力 | | 25℃ 未満 | 25℃以上 42℃未満 | 42℃ 以上 | | | |
| ※岩井温泉 | 6 | | 4 | 2 | | | 4 | 456 | 1,2210 | カルシウム・ナトリウム - 硫酸塩泉 |
| 鳥取温泉 | 35 | | 18 | 17 | | 4 | 14 | 460 | 6356 | ナトリウム - 塩化物硫酸塩泉 |
| ※吉岡温泉 | 7 | | 4 | 3 | | 1 | 3 | 436 | 8702 | 単純温泉 |
| 浜村温泉 | 32 | | 22 | 10 | | 6 | 16 | 515 | 1,1365 | ナトリウム・カルシウム - 塩化物泉 |
| ※鹿野温泉 | 8 | | 6 | 2 | | | 6 | 594 | 4874 | 単純温泉 |
| 羽合温泉 | 9 | | 7 | 2 | | | 7 | 559 | 1,7256 | ナトリウム・カルシウム - 塩化物 硫酸塩泉 |
| 東郷温泉 | 48 | | 33 | 15 | | 9 | 24 | 629 | 1,0146 | // |
| 三朝温泉 | 94 | 41 | 38 | 15 | | 15 | 64 | 494 | 2,0838 | 単純放射能泉 |
| ※関金温泉 | 22 | 3 | 12 | 7 | | 7 | 8 | 458 | 3328 | 単純温泉 |
| 皆生温泉 | 21 | | 13 | 8 | | 1 | 12 | 704 | 3,7174 | ナトリウム・カルシウム - 塩化物泉 |
| 湯谷温泉 | 5 | | 1 | 4 | | 1 | | 307 | 2634 | ナトリウム - 塩化物炭酸水素塩泉 |
| その他の 温泉地 | 7 | | 3 | 4 | 2 | 1 | | 235 | 2596 | |
| 計 | 294 | 44 | 161 | 89 | 2 | 45 | 158 | 556 | 13,7479 | |

注 (1) 平均温度は、温泉地の全ゆゝ出熱量を、全ゆゝ出量で割ったものである。

(2) 温泉地名欄※印は国民保養温泉地指定温泉地を示す。

表 18 本県の温泉の全国対比



第 2 章 自 然 公 園

第 1 節 自然公園の保護

1 自然公園の概況

自然公園は、優れた自然の風景地を保護するとともに、その適正な利用により我々の保健
休養及び教化に資することを目的として設けられたものであるが、近年、経済社会の進展に伴い
日常生活圏に良好な自然が少なくなったこともあって、都市生活等における精神的緊張の解放を
図るための場として、あるいは、野外レクリエーションの場としてその利用の欲求が高まってき
ている。

これらの欲求にこたえ、利用者が自然公園本来の目的に沿って快適な利用が図れるよう、各種
施設の整備を進めつつある。

一方、優れた自然は、後世の人間にとっても貴重な資産であるので、その自然環境を保全する
ため、規制の強化及び管理体制の充実に努めている。

県下の自然公園の指定状況及び各公園の概況は、次のとおりである。

表19 鳥取県の自然公園

| 区 分 | 公 園 名 | 指 定 年月日 | 全面積 | 県内 面積 | 特別保 護地区 | 特 別 地 域 | | | | 普通 地域 | 関 係 市 町 村 |
|--------|------------------|-------------------------------|---------|----------|------------|---------|-------|-------|-----------|----------|----------------------------------|
| | | | | | | 1種 | 2種 | 3種 | 特別 地域計 | | |
| 国 立 | 大山隠岐 国立公園 | 昭和 11 2 1 50 9 13 拡大 | 31927 | 13531 | 1139 | 3540 | 2544 | 2677 | 8761 | 3631 | 大山、溝口、江府 岸本、関金、東伯 赤碓、名和、中山 |
| | 山陰海岸 国立公園 | 38 7 15 | 8996 | 15241 | 1251 | — | 1312 | 75 | 1387 | 12 | 鳥取、福部、岩美 |
| | 小 計 | | 40923 | 150551 | 12641 | 3540 | 3856 | 2762 | 10148 | 3643 | |
| 国 定 | 比婆道後帝 国定公園 | 38 7 24 | 7808 | 1437 | — | 22 | 834 | 581 | 1437 | — | 日南 |
| | 水ノ山後山那 岐山国定公園 | 44 4 10 | 405072 | 72104 | 1961 | 6433 | 936 | 54349 | 70143 | — | 岩美、国府、八東、郡 家、若狭、智頭、用瀬 |
| | 小 計 | | 483152 | 86474 | 1961 | 6653 | 17701 | 60159 | 84513 | — | |
| 県 立 | 奥日野 県立公園 | 39 6 1 | 4278 | 4278 | 特別地域指定なし | | | | | | 日野、日南 |
| | 三朝東郷湖 県立公園 | 29 4 1 39 6 1 拡大 | 15461 | 15461 | 同 上 | | | | | | 倉吉、三朝、東郷 羽合 |
| | 小 計 | | 19739 | 19739 | | | | | | | |
| 計 | | | 1089772 | 434415 | 14602 | 42053 | 56261 | 87679 | 185993 | 3643 | 公園面積＝県土面 積の12.4% |

(1) 国立公園

ア 大山隠岐国立公園（昭和11年2月1日指定
昭和38年4月10日追加指定）

中国山脈の最高峰伯耆大山（1,711メートル）を中心とする山岳地帯に島根県の隠岐島、島根半島の美保ノ関、日御崎、出雲大社の三地点と、大田市に近い火山 三瓶山を合わせた海陸に及ぶ変化のある公園である。

大山はコートロイテ火山であるが、西方からみると富士型の美しい形なので、伯耆富士と呼ばれている。東側はこれと全く反対で、北壁と呼ばれるアルプス的な岩壁でそそり立っていて、女性的な面と男性的な二つの面を持っている。日本海に近くそびえるので、標高以上に高くみられ、すそ野原野が美しい。山頂からはナイフリッジの縦走が続きスリルがある。主峰の北には矢筈ヶ山、勝田ヶ山、甲ヶ山の火山群峰が続いている。

火山の中腹はフナの原始林におおわれていて、新緑紅葉がすばらしく、また、海岸部に多くみられているクロマツが、かなり標高の高いフナの成林がみられるような所で成育しているのが珍しい。山頂には高山植物群落があり キ ヲボクの群落がみられる。海に近いので島根半島、中海の展望がすばらしい。

中の原、豪門山の一带は、関西第一のスキー場でノフトも多く、九川方面からの利用も多い。夏はキャンプが盛んである。大山は修験道の盛んであったところで、大山寺 大神山神社などの社寺に数多くの僧坊が歴史を物語っている。大山鏡ヶ成には国民休暇村（全国最初）があり 大山の南に続く蒜山は上・中・下蒜山の三峰とそれに続く高原地帯とともにレクリエーションの中心となっている。

イ 山陰海岸国立公園（昭和38年7月15日指定）

鳥取県の鳥取砂丘から、京都府の網野町まで延長75キロの日本海海岸の公園である。鳥取砂丘、浦富海岸に続いて、但馬御火ノ浦、香住、玄武洞、城崎温泉、久美浜湾など優れた景勝地が続いている。

この辺の海岸は、地図でみると平凡のように見えるが 実際には小さいながらも湾入、岬、島々と変化が多く至るところに美しい海岸風景がみられる。地質の公園、岩石美の公園といわれる。地質が各種の噴出岩、第二紀層、深成岩など複雑で、それが美しい層をなしていたり、節理を示している。その上に地盤の隆起、陥没、断層などによって地形が複雑となっており、更に侵食をうけて断がいととなり、洞門 洞窟・石柱となり 奇勝が作られている。

(2) 国定公園

ア 氷ノ山後山那岐山国定公園（昭和44年4月10日指定）

中国山地の東端、鳥取、兵庫、岡山の3県にまたがる脊梁山地一帯で中国山地第2の高峰氷ノ山（1,510メートル）を主峰とし、後山、那岐山など1,000～1,300メートル級の南北に連なる山岳と 音水、芦津などの溪谷、神鍋、鉢伏、黒岩などのスキーや野営に適した高

原を含んだ公園である。

鉢伏山から氷ノ山、後山、大ヶ仙に至る山りう部は全体に丸味を帯びた準平原状の山容だが山腹は侵食により音水、赤西、芦津などの溪谷美や雨滝、霧カ庵などの特異なばく布群がみられる。

これらの山々の中腹又は山ろくには畑ヶ平、鉢伏、兎野、黒岩などの高原がある。

公園一帯には、自然林が各所にみられ、フナはこの公園の主要な山岳の山りう部や溪谷に発達する植生で、標高700メートル以上で群落をなしている。特に氷ノ山山頂付近は、フナ、ソオン、スキ、キフボクなどの群落がみられ、古生沼はヤチスゲ、アイソウなどの湿原植物でおおわれている。三川山、後山はノクナケがある。

なお、佐治村、三朝町の中国山地脊梁部に存するフナ、ミスナフ樹林地一帯を保護するため、当公園の一部として拡張指定するよう現在環境庁へ申出をしている。

イ 比婆道後帝釈国定公園（昭和38年7月24日指定）

中国山地のほぼ中央にある比婆、道後、船通の山々と南にある帝釈峽を含んだ公園である。

標高は約1,200メートルで、山頂部はゆるやかな準平原をなしている。この一帯の森林は砂鉄製錬のために永年にわたって伐採されたので放牧地、草原となっており、狭い草原風景を呈しており、ツツジの名所もある。比婆山のイチイの大木林と、フナの原始林は貴重な植物景観となっている。

帝釈峽は山岳地帯の南約1.6キロの地点にある石灰岩の溪谷で、付近には石灰岩の作るカスト地形がよく発達し、トローネ（地鉢）、ウハーレ（複合地金帯）、ポリエ（石灰盆地）などが見られる天然橋の雄橋、白雲洞などがある。湖水の沿岸は、森林もよく野生猿がみられる。

(3) 県立公園

ア 三朝東郷湖県立公園（昭和29年4月1日指定 昭和39年6月1日追加指定）

この公園は、三朝町の一部と東郷町の全部、羽合町の大部分、倉吉市の一部を含めた15461ヘクタールで東伯郡の東端に位置し（因幡伯耆の国境）南は岡山県美作に中国山地をへだてて接し、西は小鴨川に北は日本海にのぞんだ県のやや中央部に位置している。この区域は三朝・東郷・羽合の温泉地があり、景勝地としては、小鹿溪・東郷他・史跡名勝としては三徳山・打吹山等がある。東郷湖畔一帯は、20世紀梨の果樹園となっている。

イ 奥日野県立公園（昭和39年6月1日指定）

この公園は、日野郡日野町・日南町の日野川水系を基幹として日野町の古峠山、塔ノ峰、鶴ノ池、黒坂庵山、日野川溪流、日南町の石霞溪、菅沢ダム、花見山などを含む4,278ヘクタールの景勝地である。

2 自然公園の管理

国立公園及び国定公園については、保護の適正を図るため、特別保護地区及び特別地域を指定し、これらの地内において風致景観を損なうおそれのある一定の行為は、環境庁長官又は知事の許可を受けなければならないことになっている。

県立自然公園については、県立自然公園条例に基づいて管理運営されるか また特別地域の指定がなされていないので早急に特別地域を指定し保護管理の徹底を期することとしている。

国立公園の管理は原則として、国が行うこととされているが、自然公園法の改正により許認可事務が大幅に県知事に権限委譲され、県の管理事務量が增大している。

国立公園の管理機構としては、昭和48年7月に西伯郡大山町大山に環境庁大山隠岐国立公園管理事務所が、昭和51年10月に岩美郡岩美町牧谷に環境庁山陰海岸国立公園浦富管理員事務所が設置され、それぞれ地域内の管理業務を担当している。

昭和51年度以降の自然公園内の行為に係る許認可処理の状況は表19のとおりである。

行為の種類別では、工作物の新增築等が許可の大半を占めている。

表20 国立、国定公園における年度別許認可処理数調べ

| 公園名 | 区分 許認可権限 | 公園事業関係 | | | | | 工作物等関係 | | | | | 計 | | | | |
|--------------|-------------|--------|----|----|----|----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 昭和52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 |
| 大山隠岐国立公園 | 長官権限 | 17 | 25 | 18 | 17 | 34 | 9 | 6 | 6 | 13 | 5 | 26 | 31 | 24 | 30 | 39 |
| | 知事権限 | | | | | | 32 | 32 | 44 | 22 | 47 | 32 | 32 | 44 | 22 | 47 |
| | 小計 | 17 | 25 | 18 | 17 | 34 | 41 | 38 | 50 | 35 | 52 | 58 | 63 | 68 | 52 | 86 |
| 山陰海岸国立公園 | 長官権限 | 4 | 9 | 7 | 3 | 13 | 10 | 3 | 4 | 6 | 6 | 14 | 12 | 11 | 9 | 19 |
| | 知事権限 | | | | | | 126 | 108 | 97 | 64 | 83 | 126 | 108 | 97 | 64 | 83 |
| | 小計 | 4 | 9 | 7 | 3 | 13 | 136 | 111 | 101 | 70 | 89 | 140 | 120 | 108 | 73 | 102 |
| 氷ノ山後山那岐山国定公園 | 知事権限 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 13 | 7 | 7 | 4 | 2 | 13 | 7 | 7 |
| 比婆道後帝釈国定公園 | 知事権限 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 |
| 計 | | 21 | 34 | 25 | 20 | 47 | 183 | 151 | 166 | 113 | 150 | 204 | 185 | 191 | 133 | 197 |

3 自然公園の環境美化

自然公園内の主要利用地においては、利用者のもたらす空缶等廃棄物による人為的汚染が各所で問題となっているが これらの地域における環境汚染については、ほとんどの地域が日常生活圏から遠隔地であるという地理的条件の悪さから、廃棄物の効率的な収集処理等は極めて困難と

なっており、この対策については地元市町村のみでは対応が難しいところであり、県においては、国の補助金と合わせて、民間活動団体の美化清掃活動に対して昭和56年度は表20のとおり助成を行い、また、昭和56年5月自然公園美化管理財団の大山支部が設置されたのに伴い美化整備並びに公園管理について一層力を入れている。その育成を図るとともに環境美化を推進している。

なお、大山地域においては昭和52年から、鳥取砂丘地域においては昭和55年から、自然保護団体、地域住民、関係行政機関等の呼掛けで公園内のゴミ一掃を目指したクリーン運動が春・秋の各1回実施され、多くの参加者により年々ゴミの量は減りつつあるが、最終的な環境美化を成しとげるためには利用者のモラル向上が望まれている。昭和56年度のクリーン運動の概況は、表21のとおりである。

表21 昭和56年度美化清掃活動事業費実績

| 公園名 | 地区名 | 事業費 |
|----------|----------|---------|
| 大山隠岐国立公園 | 大山地区 | 4,800千円 |
| | 鏡ヶ成・榊水地区 | 2,400 |
| 山陰海岸国立公園 | 鳥取砂丘地区 | 4,800 |
| | 浦富海岸地区 | 2,400 |

表22 昭和56年度クリーン運動概況

| 地域名 | 実施月日 | 参加者 |
|------|--------|--------|
| 大山 | 4月26日 | 2,100人 |
| | 10月25日 | 1,000 |
| 鳥取砂丘 | 4月12日 | 1,900 |
| | 10月4日 | 1,700 |

4 自然保護用地の買上げ

国立国定公園の特別保護地区及び第1種特別地域内の民有地で、緊急にその土地を公有化しない限り自然の保護の徹底を規せられない地域について、交付公債により買い上げ、自然の保護の徹底を期することとしている。

現在までの公有化状況は、表22のとおりである。

なお、氷ノ山、後山、那岐山国定公園、智頭町芦津地内の第3種特別地域の土地について、立木のみを買収を行い、土地は、地上権を設定する本県独自の 방법으로、表23のとおり自然保護用地の取得に当たっている。

表23 自然保護用地の買上状況

| 公 園 名 | 場 所 | 面 積 |
|-----------------|-------------|---------------------|
| 大 山 隠 岐 国 立 公 園 | 江 府 町 木 谷 | 1 0 2 5 4 <i>ka</i> |
| | " 鏡 ヶ 成 | 7 8 1 5 |
| | 中 山 町 遠 茶 畑 | 2 5 6 4 |
| | 大 山 町 大 野 | 6 9 7 9 |
| | " 向 原 | 7 4 7 |
| | 計 | 2 8 3 5 9 |
| 氷ノ山後山那岐山国定公園 | 智 頭 町 芦 津 | 4 7 7 7 |
| 合 計 | | 3 3 1 3 6 |

表24 立木購入状況

| 公 園 名 | 場 所 | 地上権設定面積 | 地上権設定期間 |
|---------------------|------------------|-----------------------|---------|
| 氷ノ山後山那岐山 国 定 公 園 | 智 頭 町 芦 津 地 内 | 3 8 6 0 9 5 <i>ka</i> | 5 0 年 |

第2節 自然公園の利用

1 自然公園の施設整備

所得や余暇の増大、都市化の進展等の要因により、国民の自然環境でのレクリエーション活動はますます増大しており、自然公園の利用者は近年増加の傾向にある。

本県では毎年計画的に自然公園の施設整備を進めており、昭和56年度は表24のとおり実施した。

表25 昭和56年度自然公園等施設の整備状況

(1) 国立・国定公園

| 公 園 名 | 事 業 名 | 施設箇所 | 事 業 内 容 |
|--------------------|-----------------|-------|---|
| 山 陰 海 岸 国 立 公 園 | 山陰海岸自然科学館 整備 | 岩 美 町 | 駐 車 場 A S 舗 装 1,444 <i>m</i> ² |
| | | | サ イ ト 造 園 896 <i>m</i> ² |
| | | | 汚 水 浄 化 施 設 1 式 |
| | | | 空 調 施 設 1 式 |
| | | | 展 示 1 式 |
| " | 羽尾岬歩道整備 | " | 歩 道 W=15m L=1,310m |
| 大 山 隠 岐 国 立 公 園 | 一向平野営場整備 | 東 伯 町 | 駐 車 場 1,050 <i>m</i> ² |
| | | | 管 理 棟 木 造 487 <i>m</i> ² |

(2) 県立公園

| 公園名 | 市町村 | 場所 | 事業内容 |
|-----------|-----|-----|---|
| 三朝東郷湖県立公園 | 倉吉市 | 大平山 | 展望休憩舎 鉄骨造 33.9 ^m ² |
| 奥日野県立公園 | 日野町 | 鶉ノ池 | 車道舗装 L=458m W=3.5m |
| " | 日南町 | 花見山 | 駐車場造成 1,400 ^m ² 路盤 866 ^m ² |

(3) 中国自然歩道

| 区分 | 路線名 | 通過地 | 事業内容 |
|---------------------------|---------|-------------------|---|
| 公園内 (氷ノ山後山那岐山 国定公園) | 芦津~三滝奥 | 智頭町 | 歩道(改良) W=1.5m L=2192m 標識区間 5.0Km 休憩所 1棟198 ^m ² |
| " | 広留野~扇ノ山 | 若桜町 | 歩道(改良) W=1.5m L=1,088m 標識区間 1.5Km |
| 公園外 | 芦津~広留野 | 智頭町 八東町 若桜町 | 歩道(改良) W=1.5m L=1,001.7m 標識区間 2.10Km 休憩所 1棟19.8 ^m ² |

2 自然公園の利用者

県下の自然公園の利用者は表26のとおりで、昭和50年から数年間微増を続け、昭和53年は710万人に増加したのに続き、54年は735万人と46年以降最高の数字を示したが、昭和55年には680万人と約50万人も利用者が減少した。この原因としては、第2次オイルショックによる景気のかげりと、55年夏の異常な冷夏の影響が考えられる。

表26 自然公園の利用状況

| 公園名 | 年度 | | | | | | |
|------|--------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 昭和50年 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | |
| 国立公園 | 大山隠岐国立公園 | 2,150,000 ^人 | 2,186,400 ^人 | 2,195,300 ^人 | 2,746,000 ^人 | 2,498,200 ^人 | 2,543,000 ^人 |
| | 山陰海岸国立公園 | 2,456,000 | 2,421,900 | 2,569,500 | 2,464,900 | 2,635,000 | 2,188,000 |
| | 小計 | 4,604,000 | 4,608,300 | 4,764,800 | 4,640,900 | 5,133,200 | 4,732,000 |
| 国定公園 | 氷ノ山後山那岐山国定公園 | 135,100 | 137,800 | 138,100 | 140,000 | 170,000 | 162,000 |
| | 比婆道後帝釈国定公園 | 28,400 | 29,000 | 29,100 | 29,500 | 36,000 | 34,000 |
| | 小計 | 168,500 | 166,800 | 167,200 | 169,500 | 206,800 | 196,000 |
| 県立公園 | 三朝東郷湖県立公園 | 1,557,000 | 1,634,500 | 1,852,100 | 1,859,700 | 1,847,500 | 1,721,000 |
| | 奥日野県立公園 | 125,200 | 127,700 | 128,000 | 130,000 | 158,600 | 150,000 |
| | 小計 | 1,683,000 | 1,762,200 | 1,980,000 | 1,989,700 | 2,006,100 | 1,872,000 |
| | 合計 | 6,452,000 | 6,537,300 | 6,912,100 | 7,100,100 | 7,346,100 | 6,800,000 |

第 3 章 鳥 獣 保 護

第 1 節 鳥 獣 の 保 護

1 鳥獣保護の概況

野生鳥獣は自然環境を構成する重要な要素の一つであり、自然環境をより豊かにする上で欠くことのできないものである。同時に、その減少は人間にとっても生活環境の悪化を示す指標と認識されている。

また、森林や農作物の害虫の天敵としても有益である。県内に生息する野生鳥類は約 280 種であり、特に中海のコハクチョウは我が国の南限集団渡来地として貴重な場所となっている。

近年、野生鳥獣は各種の開発によって生息状況は変化し、生息数の減少が余儀なくされている。

本県では、これら野生鳥獣の保護対策の一つとして、5 か年を一期とする「鳥獣保護事業計画」を樹立して、計画的に保護対策を実施している。

2 鳥獣保護の対策

(1) 鳥獣保護区等の設定

ア 鳥獣保護区の設定

野生鳥獣の保護及び繁殖を図るため 次のとおり鳥獣保護区を設定している。

表27 鳥 獣 保 護 区

| 区 分 | 県 設 | | 国 設 | | 合 計 | |
|-------------|-----|----------------------|-----|----------------------|-----|----------------------|
| | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> |
| 森林鳥獣生息地の保護区 | 6 | 5,802 | 5 | 13,708 | 11 | 19,510 |
| 大規模生息地の保護区 | | | 1 | 3,372 | 1 | 3,372 |
| 集団渡来地の保護区 | 2 | 1,577 | 1 | 8,462 | 3 | 10,039 |
| 特定鳥獣生息地の保護区 | | | 1 | 302 | 1 | 302 |
| 愛護地区の保護区 | 3 | 24 | | | 3 | 24 |
| 合 計 | 11 | 7,403 | 8 | 25,844 | 19 | 33,247 |

(昭和57年3月末日現在)

イ 休猟区の設定

狩猟鳥獣の減少した地域を、3 か年間休猟とし、キジ等の狩猟鳥獣の繁殖を図り 狩猟の持続性を促進するため、次のとおり休猟区を設定している。

表28 休 猟 区

| 昭和54年度 | | 55年度 | | 56年度 | | 計 | |
|--------|----------------------|------|----------------------|------|----------------------|-----|----------------------|
| 箇所数 | 面積 <small>ha</small> | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> | 箇所数 | 面積 <small>ha</small> |
| 11 | 15,072 | 11 | 15,351 | 11 | 15,790 | 33 | 46,213 |

(昭和57年3月末日現在)

ウ 銃猟禁止区域の設定

銃猟による危険の未然防止の必要な観光地、レクリエーション等のため人の出入りの多い地域及び病院、学校等の静ひつが必要とされる地域23か所、8,177ヘクタールを銃猟禁止区域に設定している。

(2) 狩猟鳥獣の人工増殖

狩猟鳥獣の保護、繁殖を図るため人工養殖した日本キジを生息適地である休猟区22か所に900羽放鳥し、これの増殖に努めている。

(3) 狩猟の適正な推進

狩猟はスポーツとしての狩猟のほか、野生鳥獣の生息調整に大きな役割を果たしているが、捕獲に際しては銃器、わな等を使用するため高度の技術と知識が必要であり、加えて公安上の危害が生ずるおそれがあること等から狩猟者は知事の行う狩猟免許試験等を受け、狩猟免許を取得することが義務付けられている。昭和56年度の狩猟免許試験等の実施状況は、次のとおりである。

表29 狩猟免許試験等の実施状況

| 種別 | 区分 | 狩 猟 免 許 試 験 | | | 審 査 及 び 講 習 | | | 昭和54年度から 昭和56年度まで 免状交付件数 |
|-----|----|-------------|------|------|-------------|------|------|--------------------------------|
| | | 受験者数 | 合格者数 | 合格 率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格 率 | |
| 甲 種 | | 6 | 5 | 83% | | - | - | 133 |
| 乙 種 | | 93 | 73 | 78 | 9 | 9 | 100 | 3,351 |
| 丙 種 | | 61 | 47 | 77 | 5 | 5 | 100 | 680 |
| 計 | | 160 | 125 | 78 | 14 | 14 | 100 | 4,164 |

また、狩猟免許者が狩猟期間中(11月15日から翌年2月15日まで)に、狩猟鳥獣を捕獲しようとする者に狩猟者登録証を次のとおり交付した。

表30 狩猟者登録証交付状況

| 種別 | 区分 | 昭 和 5 4 年 度 | | | 昭 和 5 5 年 度 | | | 昭 和 5 6 年 度 | | |
|-----|----|-------------|-----|-------|-------------|-----|-------|-------------|-------|-------|
| | | 県内者 | 県外者 | 計 | 県内者 | 県外者 | 計 | 県内者 | 県外者 | 計 |
| 甲 種 | | 85 | 3 | 88 | 95 | 3 | 98 | 1 | 83 | 84 |
| 乙 種 | | 2,813 | 210 | 3,023 | 2,622 | 209 | 2,831 | 179 | 2,505 | 2,684 |
| 丙 種 | | 422 | | 422 | 379 | | 379 | 1 | 399 | 400 |
| 計 | | 3,320 | 213 | 3,533 | 3,096 | 212 | 3,308 | 181 | 2,987 | 3,168 |

(4) 愛鳥モデル校の指定

児童生徒の情操教育の一環並びに愛鳥思想の普及啓もうを図るため、次の小 中学校を愛鳥モデル校に指定している。

表31 愛鳥モデル校

| 指 定 期 間 | 市町村名 | 学 校 名 | 摘 要 |
|-------------|-------|-------------|--------------|
| 昭和52.4～57.3 | 鳥 取 市 | 醇 風 小 学 校 | 野鳥愛護林を有している。 |
| " | " | 明 徳 " | |
| " | 智 頭 町 | 智 頭 " | |
| " | 若 桜 町 | 若 桜 " | |
| " | 倉 吉 市 | 成 徳 " | 野鳥愛護林を有している。 |
| " | " | 西 郷 " | |
| " | 米 子 市 | 義 方 " | |
| " | 大 山 町 | 大 山 中 学 校 | |
| " | 日 南 町 | 日 野 上 小 学 校 | |
| 計 | | 9 校 | |

(5) 野生鳥獣の生息調査

野生鳥獣の保護対策、狩猟対策及び有害鳥獣対策の適切な実施に資するため 次の調査を実施した。

表32 野生鳥獣の生息調査

| 区 分 | 調 査 地 | 対象鳥獣 | 調査定線の規模 | 調 査 回 数 |
|---------------------------|----------------------------|---------------|--------------------------|-----------------------|
| 環 境 別 増 減 調 査 | 大山町大山寺ほか7か所 鳥取市湖山池ほか2か所 | 一般鳥獣 湖沼の鳥獣 | 幅40m 延長4Km 湖面全域 | 5月、11月各1回 9月～3月計6回 |
| 設定効果調査 | 佐治村高鉢山ほか2か所 鳥取市吉岡ほか6か所 | 一般鳥獣 狩猟鳥獣 | 幅20m 延長2Km 幅20m 延長4Km | 6月 11月各1回 " |
| ガン、カモ、 白鳥類渡来状 況一斉調査 | 鳥取市千代川ほか7か所 | ガン、カモ 白鳥類 | 水面の全域 | 毎年1月16日 |